

いま世界のファッション・ビジネスをリードしているのは、イタリアです。なぜイタリアが優れているかといえば、創・工・商の流れがスムーズだからです。イタリアといえば世界的なデザイナーに注目が集まりがちですが、川上にはモデリストがいて、川下には優れたMD（マーチャン・ダ



サンプル縫製を担当するオペレーター。

イザー)が控えているといった、モノづくりのシステムが完成しています。日本では残念ながら、その流れが無残なほど断絶されている。最近ではSPAが出現し、創と商の関係が改善しつつありますが、その間をつなぐ工との溝は依然そのままです。私は、その断絶にこそビジネスチャンスがあると感じています。創・工・商の橋渡し役。それがヴァローレエの目指

すものであり、そこに存在価値もあるのです。

当社は企画・パターン・サンプルを三位一体と考え、デザイナー、パタンナー、サンプル縫製のオペレーターを社内に擁し、これら一連の作業を社内で行う体制を整えています。そして生産加工の手配と管理までを担当しています。モノを企画する人、つくる人、売る人では、感性や考え方が違います。当社の役割は、それぞれの人たちの言葉を翻訳し、各人が十分に力を発揮できるモノづくりのシステムをつくり上げることです。

私はかねてより、ヨーロッパのモノづくりの考え方を理解することが大切だと思っています。デザイナーは消費者の動向はもちろん、生地についても熟知しておく必要がある。パタンナーはデザイナーの感性を理解すると同時に、工場における生産管理の知識を身につけておく必要がある。いま求められているのは、こうした一気通貫型のモノづくりです。

当社のセールスポイントは、市場を見据えたデザインから生産現場に

密着したパターンづくり、そして工場のライン取りと生産管理までが一気通貫でできることです。つまり、当社に発注すればクイック生産が可能であり、店舗における製品回転率を高めることができるわけです。このため、大手アパレルメーカーや小売店グループのSPAなどの取引が増えています。大手アパレルではブランドの多様化により、展示会シーズンなどに社内で新作を取りまとめるのが難しくなっています。小売店グループでは、アパレルメーカーの製品を売っていたのでは利益率が薄いため、SPAに乗り出すところが増えてきています。そうしたところのニーズに、当社のような業態はまさにぴったりマッチするのではないのでしょうか。

今後は、テキスタイルメーカーとのコラボレーションを進めるなど、川上での機能強化を図り、生地、付属、企画、パターン、縫製が協力し合うイタリア型の集合体をつくり、工場からの情報発信を行っていきたくと考えています。

櫻井啓蔵氏プロフィール
1960年生まれ。アパレルメーカー勤務を経て、89年にヴァローレエを創業。社員数は15名。社内にデザイナー、パタンナー、サンプル縫製の社員を抱えるほか、社外スタッフとのコラボレーションにより大手アパレルメーカーやSPAからのニーズに応じている。また、パタンナーやモデリストの育成にも力を注いでいる。



デザイナー・パタンナー・オペレーターが三位一体となってモノづくりを行っている。

企画・パターン・サンプルを主体とした 新業態を確立。

ヴァローレエ社長
(大阪市中央区)

櫻井啓蔵

